

御船中版「熊本の学び」 SMARTな授業実践

S	シンプル	わかりやすい指示や説明（簡潔に、視覚で捉えやすく）をする。
M	目的・目標	「何が分ればよいのか」「何が出来ればよいのか」を明確にして“めあて”を示す。単元のゴールの姿を設定しよう。
A	アクティブ	生徒が活動する時間を確保する。教師がしゃべりすぎない。
R	練習	定着を図る時間を確保したり、小テストを実施したりする。
T	たしかめ	共通のノートである板書をもとに本時の学習を振り返ったり、ポイントをもとに学習のまとめをしたりする。



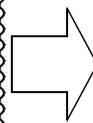
M 本時に「〇〇ができる（～がわかる＝～を説明できる）」が明確な『めあて』の提示

『めあて』を**目に見える活動**の表記にして、生徒と**目指す姿を共有**しよう！

※『めあて』とは、50分の授業が終わったときに目指す生徒の姿（目標）です。学習課題や問題提示、発問とは区別します。

Before

- ▲ どうして「走れメロス」と題をつけたのだろうか（国語）
- ▲ 鎌倉時代の武士と民衆の生活の特色がわかる（を調べよう）（社会）



After

- タイトルに込められた作者の思いを原作との違いを根拠に書くことができる（国語）
- 鎌倉時代の武士と民衆の生活の特色を双方の違いや以前の生活との違いを明確にして説明できる。（社会）

- ◇ 『めあて』カードを使い、黄色チョークで枠囲みしましょう。
- ◇ 教師が一方向的に『めあて』を提示するのではなく、前時の振り返りや生徒の気づきやつまづきを生かして、生徒の「わくわく」が連続する『めあて』の設定へ導きましょう。

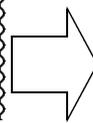
A 全員の「やってみよう」「なるほど」が生まれる“自力解決”と対話的で深い学びが生まれる“協働解決”の場の設定

見通しをもった“自力解決”にしよう！
必要性・手段を明確にした“協働解決”にしよう！

- ※『見通し』とは、解決の方法や手順を自分なりにイメージすることです。
- ※『必要性・手段』とは、何のためにペアやグループ活動をするのか、何について話し合ったり協力したりするのか、どのような方法・役割で活動したりするのかということです。

Before

- ▲ 見通しをもたない生徒がいるのに、自力解決の時間を長くとり、個別指導でヒントを出す（自力解決にならない）



After

- 互いの気づきや解決の方針を出し合い、解決方法や手順を可視化して自力解決の時間を設ける

▲ 意見が出ないから（時間に余裕があるから）、班で話し合う時間を設ける

○ ペアやグループで活動する意義を確認し、活動の方法や役割、話し合いの視点を可視化して活動させる。

- ◇ 協働解決でどんな手順で何をすればよいかのかを、簡潔に（箇条書きで）板書しましょう
- ◇ 自力解決、協働解決の過程やアイデア、交わされた意見をノートやシートに記録させましょう。生徒が自分の成長を実感し、問題解決の手手法や主体的に考える力を付けることができます。



⊥ 本時に「〇〇ができた」「〇〇が分った（説明できた）」を確認できる『まとめ・振り返り』の実施

「問い方」を工夫して、『まとめ・振り返り』をしよう！

※『まとめ・振り返り』とは、学びの自覚・共有、修正・改善を図るためのものです。

Before

- ▲ 教師が学習内容をまとめる
例) 金属は温めたら膨らむことが分ったね。しっかり覚えよう。
- ▲ 生徒が感想を述べるだけになっている
例) 今日の実験は班で協力してできました。楽しかったです。
- ▲ 活動が多すぎて時間が足らなくなり、『まとめ・振り返り』ができない。
例) 各自でまとめてください。

After

- 生徒が自ら振り返るなかで
 - ◎ 学習内容に気付く
例) 金属は温めたら膨らむことが分かった。
 - ◎ 学習過程・方法に気付く
例) 温める前と後の金属棒の長さを比べることで変化に気付いた。
 - ◎ 価値・自己変容に気付く
例) 金属の性質を考えて、線路の継ぎ目に隙間があるんだ。

◇ 『まとめ・振り返り』を引き出す問い方の例

【学習内容】今日の学習で何が分かりましたか まだ解決していない問題は何ですか
もっと調べてみたいことは何ですか

【学習過程・方法】どのようにして分ったのですか

今日の学習で「こうすればもっと良かった」と思うことは何ですか

【価値・自己変容】生活（今後の学習）にどう生かしますか（生かしてありますか）

見方や考えがどのように変わりましたか 何ができるようになりましたか

※『まとめ・振り返り』の項目は、本時の目標に沿って1～2点に絞りましょう。

◇ 『まとめ・振り返り』の内容を2～3分程度でペアで伝え合うことも効果的です。特に、『めあて』が“～を説明できる”の場合は、説明できるかを確認する為に必要です。

◇ 『まとめ・振り返り』をするためには、共通のノートである黒板（ホワイトボード）で1時間の学習の流れを振り返ることができるよう、計画された板書が必要です。